

佐野短期大学シラバス2013

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
幼児心理学 Infant Psychology		1年	後期	月曜日・1時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義		選択（教職課程必修（幼稚園教諭二種））	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
発達心理学 I				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士養成課程上の科目				
担当者にに関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
秋山真奈美		講義棟3階	火・土・授業時間を除く	授業中に指示します
授業の概要				
「発達心理学 I」から引き続き、幼児期の発達の特徴に焦点をあて、学んでいく。発達著しい幼児期の特徴を理解し、子どものものの見方を理解した上でどのように働きかけるか、保育者を志す者として主体的に考察することが大切であるので、講義内容と自分が見聞したことを結びつけ、より精度の高い経験知を体得して欲しい。その結果として、幼児期の子どもたちの発達の様相が総合的に理解できるようになることを期待する。				
授業の到達目標				
①幼児期の発達の特徴を理解できるようにする。 ②あらゆる発達が、周囲の人間との相互的関係の中で促されていくことをしっかりと了解できるようにする。 ③保育の専門家としてよりよい援助の仕方を探求する視点を体得できるようにする。				
授業の方法				
視覚教材、プリント等も活用しながら講義形式にて実施する。単元の終了ごとに小テストを行う。各自の実習等での体験を発表してもらう場合がある。 好ましいレポートや論述試験解答の書き方および評価の基準・観点は、初回オリエンテーション時に具体的に指導する。				
学習の成果				
①幼児期の子どもたちの発達の様相を総合的に理解することができる。 ②幼児の認知や思考の特徴を知ることができる。 ③幼児が理解しやすい関わり方・援助の仕方について色々な方法を想定することができる。 ④基本的生活習慣の養育の方法について、理論的枠付けを得ながら具体的に知ることができる。 ⑤幼児期の遊びの意義を理解することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション：授業の方法と計画の説明 乳児期から幼児期への発達の流れ			
第2回目	身体と運動の発達：身体発達 運動能力の発達 運動と「こころ」の発達との関係			
第3回目	身体と運動の発達：基本的生活習慣の意義			
第4回目	身体と運動の発達：子どもとあそび			
第5回目	身体と運動の発達：発達におけるあそびの意義			
第6回目	認知発達と学習：子どもの知覚の世界 子どもの描画能力の発達（※レポート提出）			

第7回目	認知発達と学習：記憶の発達と知識の発達	
第8回目	認知発達と学習：思考の発達段階　子どもの問題解決	
第9回目	言語の発達：話しことばの発達　書きことばの発達　ことばについての知識	
第10回目	情動の発達：情緒の働き　情緒の分化と発達　子どもの情緒の特徴　情緒の発達を促すために	
第11回目	欲求・動機の発達：欲求と動機のはたらき　欲求不満と葛藤　欲求不満耐性	
第12回目	仲間関係の発達：社会的スキル　道徳性の発達を育むために	
第13回目	性役割の発達：ジェンダー　役割期待	
第14回目	パーソナリティの発達：性格の生涯発達と恒常性　個々の子どもの性格の理解	
第15回目	総括：児童期に向けて　期末考査（論述式筆記試験）	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	私語・居眠り・授業に無関係の行動・不参加は減点の対象とする。
レポート	20%	「実習現場で見かけた園児の問題行動とその対処について」。実習終了から2週間後に提出。提出点10点満点、内容点10点満点で評価する。視点に客観性とバランスの良さがあることを期待する。
調査報告書		
小テスト	10%	単元終了毎に、その翌週の授業冒頭で実施する。日常の努力点として勘案する。小テストを復習すれば、学年末試験での成果が期待できるしくみである。
中間・学期末試験	60%	5問中3問を選択して論述すること。学習の成果が反映された、設問への妥当な回答がなされていることを評価する。このため具体的な事象・事例の記述や多角的な視点からの考察はおおいに加点の対象になる。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：『保育の心理を学ぶ』長谷部比呂美ら（ななみ書房）。（※発達心理学Ⅰと同じ教科書なので新規購入不要） 参考書は初回授業はじめ各回授業で随時紹介する。		
履修上の心得・ルール		
発達についての知識無くして保育・教育現場での適切な関わりは期待できない。私語を慎み、真剣に受講すること。		